家族会ほっとライン

家族を思う
あなたの気持ちが
日本を支えます

超高齢化社会への備え　シニアの鉄人　第61回

65歳 年金の繰下げ受給は思案のしどころ!?

65歳から老齢基礎年金と老齢厚生年金の受給権が発生します。受け取りのためには、65歳前に既に特別支給の年金を受け取っていた人も含めて、あらためて申請が必要になります。

申請をしなければ年金は自動的に繰下げられ、最大で75歳まで繰下げることができます。

繰下げの最大の魅力は、年金額が増額されることで、その増額率は1カ月0・7%、1年で8・4%です。自紙的に70歳から受給すれば、65歳からの受給額の約1・42倍、75歳ではなんと約1・84倍の年金が受給できることになります。高齢化が進む社会の中で長生きリスクに対する心配は絶えませんから、繰下げによる年金の増額は非常に魅力的です。

しかし、額面と実際に手にできる金額は違いますし、繰下げることのデメリットもあります。表面的な数字に囚われずに中身についてしっかり確認することが大切です。ここでは、繰下げする場合の留意点について紹介します。

額面通りの金額が手に入るわけではありません

年金も収入です。一定額以上になると所得税、住民税がかかります。また、65歳で退職する場合は、厚生年金受給開始とともに、加給年金（厚生年金の家族手当のようなもの）が加算されます。金額は、配偶者の場合、年額約39万円で、配偶者が65歳になるまで加算されます。

しかし、繰り下げして厚生年金を受給しなければ、この加給年金の支給は停止されます。注意すべき点は配偶者が65歳になった時点で受給資格がなくなることです。例えば、65歳時点で60歳の配偶者がいる場合、70歳まで繰り下げすると、配偶者は65歳になりますから、加給年金を受け取る機会はなくなります。もし、65歳から厚生年金を受け取っていれば、加給年金の総額は約200万円になります。

繰り下げしても、年金が増額されない場合があります

会社などで働きながら給料をもらう一方、厚生年金も併せて受給する人は、これらの収入の総額が一定額（月額48万円）以上になると年金額が調整されます。例えば、会社の給与収入（年間収入の月平均）が45万円で厚生年金額が月額15万円とすると調整額48万円を超えた12万円の半分6万円が支給停止となり年金額は月額9万円となります。「支給停止になるくらいであれば、会社を辞めるまで繰下げしたほうが得」と考える人がいるかも知れませんが、注意すべきは、支給停止になる金額（この場合6万円分）は、繰下げしても増額の対象にはなりません。65歳で15万円の年金が70歳まで繰下げれば、約21万円になると思っていた厚生年金は、支給停止とならない9万円部分だけが増額対象になるので、結果約19万円ということになります。

繰下げ増額分は遺族年金への反映はありません

繰下げ受給で年金額が増額になっても遺族厚生年金への反映はありません。つまり65歳時点での年金額が遺族年金額の基礎になります。例えば、夫の基礎年金が75万円、厚生年金が16万円、妻が基礎年金のみ75万円とした場合、夫の年金を70歳まで繰り下げると約330万円になり妻の基礎年金と合わせる年金額が400万円を超える収入になります。しかし、夫が先に死亡すると、夫の基礎年金は消滅し、65歳時点の厚生年金額の4分の3が遺族年金になります。従って、妻の年金額は自分の基礎年金75万円と遺族厚生年金1万円程度あったものが半分以下の収入になってしまいます。一人暮らしになるとはいえ、急に生活水準を落とすのは難しいことです。繰り下げを行なう場合、このような落差が大きくなる可能性があることも十分認識しておくことが大切だと思います。

ライフプランに合わせた受給の選択をしましょう

年金収入が軸になる生活はわずかな金額の違いも気になります。繰下げによって70歳で1・4倍、75歳で1・8倍という数字を鵜呑みにすると実際受給する年金額に「こんなはずでは」と思うことになりかねません。

年金は、長生きリスクへの保険です。損得勘定だけでなく、年金の内容をよく確認した上で、ご夫婦で生活設計にあわせた年金受給の選択を考えられることをお勧めします。

（家族会会員　立花　尊顕）

奈良県
郷土の誇り「あすか」見学
足を運ぶことで得られる大切さを実感

「あすか」艦首前で集合写真

奈良県には、航空自衛隊の幹部候補生学校があり、空自幹部の故郷として知られています。しかし、全国で唯一、陸上自衛隊駐屯地を持たない県であり、また海に面していないため海上自衛隊との接点が少ないのが現状です。

こうした状況の中、梅雨が明ける直前の7月14日、県民にとって馴染み深い名前を冠した試験艦「あすか」（艦長・濱邊秀幸1等海佐）が関西地区に入港しました。

これを機に、かねてより女性会員から要望のあった艦内見学を実施しました。

当日、7人の参加者が阪神基地隊に集まり、基地隊司令（吉田圭司1等海佐）への表敬訪問の後、約1時間にわたって乗艦し、艦内を見学しました。

初めて自衛艦に乗ったという感想や、世界的にも珍しい試験艦の存在を知らなかったという驚きの声が上がりました。また、乗員の中には、救急救命士や准看護士の資格を持つ隊員がおり、その存在が心強いと感じた隊員家族からの意見もありました。

この艦内見学を通じて、海上自衛隊への理解が深まると同時に、地域における「あすか」の誇りをより実感することができました。

地の利がなくても、積極的に足を運ぶことが大切だと感じながら、艦を後にしました。この経験をこれからの奈良県自衛隊家族会の活動に生かしていきたいと思います。

（奈良県自衛隊家族会　会長　河本　順雄）

千葉市
海自館山航空基地を研修
研修を通して家族の絆を取り次ぐ

参加者全員での集合写真

千葉市自衛隊家族会は7月23日、総勢45人で海上自衛隊館山航空基地の研修を実施しました。

基地に到着後、会長、副会長、事務局長および千葉募集業務内所長は、第21航空群司令（行松栄治海将補）と首席幕僚（大山康倫1等海佐）を表敬訪問しました。大山1佐は前千葉地方協力本部長を務められた方で、家族会へのご理解が非常に深く大変お世話になっていました。

今回の研修では家族隊員が館山航空基地で勤務しているという方々が参加され、ご子息らの勤務している場所、勤務している様子を垣間見ることができたと喜んでいました。

個々の研修や会員相互の親睦とは別に、こうした家族の絆を取り次ぐ役目も研修を通してできるのではないかと改めて感じたました。

ヘリコプターがそれぞれの基地へ戻るという時間帯になると、滑走路周辺には大漁旗を振る隊員や「帽振れ」をして飛び立つヘリコプターにあいさつをする姿が見られるなど、最後まで本当に楽しめるヘリコプターフェスティバルでした。

最後になりましたが、千葉募集業務内所所長はじめ広報官2人が研修に随行し会員の安否に気を配ってくださいました。心より感謝申し上げます。

（千葉市自衛隊家族会　事務局長　杉浦　敦子）

宝塚（兵庫県）
宝塚サマーフェスタで自衛隊をアピール
宝塚家族会として初めてのチャレンジ

グッズ販売ブース

宝塚自衛隊家族会は8月6日、宝塚サマーフェスタに参加し、兵庫地方協力本部伊丹地域事務所の広報ブースの隣で、自衛隊グッズの販売を行いました。

当会としては初めてのチャレンジでした。

全員で20人ほどの小さな自衛隊家族会ながら13人の会員が協力して、グッズ販売の傍らで、募集広報用のチラシやミニカードを配布して地域事務所の広報官をアシストしました。

ステージでは太鼓隊の演奏が、ブースでは自衛隊のバイクや高機動車が、1年ぶりの宝塚市民のお祭りを盛り上げてくれていました。

自衛隊のグッズや乗り物は特に子供連れの方に人気でした。

また地元市民からの自衛隊員への温かい励ましや期待の言葉をいただき、参加した会員から「初めての経験でしたが、自分自身も楽しめて参加してよかったです」との感想をもらい、当初の不安もどこかへ消え、やることに意義があるのだなと実感した一日でした。

（宝塚自衛隊家族会　会長　高橋　三津子）

岩美町（鳥取県）
高尾山分屯基地祭2023に参加
航空警戒任務の重要性を理解

鳥取県自衛隊家族会岩美町家族会は、7月15日「航空自衛隊高尾山分屯基地祭2023」に会員12人で参加しました。

高尾山分屯基地（司令・奥井宗尚2等空佐）は、鳥取県松江市にある第7警戒隊が所在する分屯基地です。

全国28カ所あるレーダー基地の1つで、まわりは大山隠岐国立公園という風光明媚な環境の中にありますが、日本海の長い海岸線と接し、空と海からの脅威に対する防衛、警備に警戒しながら重要な任務を行っていることを知りました。

この日は一般開放日で、分屯基地に所属する隊員によって構成され、F−22戦闘機仕様のカワルを被せた自転車のアクロバットチーム（高尾山レットクラブ）が展示走行を実施。楽しく見学しました。

その他、装備品展示、空自空揚げ試食、高尾山山頂見学などが予定されていましたが、残念ながら山頂見学は、土砂崩れのため中止になりました。梅雨明けの暑い日でしたが、とても有意義な時間を会員一同で過ごすことができました。

（岩美町自衛隊家族会　会長　前田　節夫）

高尾山分屯基地正門で集合写真

石川県
護衛艦・多用途支援艦の入港歓迎
華やかな和服姿で出迎え

華やかな和服で歓迎

石川県自衛隊家族会（中正章会長）は、7月14日「港フェスタ金沢」に併せて金沢港クルーズターミナルに入港した海上自衛隊舞鶴地方隊所属の護衛艦「ふゆづき」を華やかな和服姿で出迎え、艦長および地元石川県出身10人の隊員を激励しました。

15日には「七尾港まつり」に併せ、多用途支援艦「ひうち」が七尾港に入港し、石川県家族会七尾支部の会員による乗員歓迎式が能登食祭市場で行われました。

両日、護衛艦「ふゆづき」と多用途支援艦「ひうち」が一般公開され、それぞれに行列ができ、来場者は甲板や艦内を見て回り写真撮影を楽しみました。

今後も石川県自衛隊家族会は隊員に寄り添った活動を行い、自衛隊を支えていく組織として応援していきたいと思っています。

（石川県自衛隊家族会　事務局長　依　秀雄）

神奈川県（防衛大）
遠泳訓練を応援する洋上クルーズ
船上から手を振り、声を出して応援

7月24日、神奈川県自衛隊家族会の中條祐介新会長が初めて企画した防衛大学校1学年（71期）の遠泳訓練を応援する洋上クルーズに参加しました。

学生たちが一生懸命頑張っている姿を船上から手を振りながら声援を送りました。中には余裕を持って泳ぐ学生もおり、彼らが手を振り返して応えると、船上の応援も一層大きくなりました。

過酷な訓練の中で、学生と家族の双方が意思疎通できたかのような嬉しさが私たちの心に満いてきました。

洋上での応援が終わると、走水海岸に移動し、息子が所属するグループが岸に上がるのを待ちました。どのグループも列を保ちながら泳ぎ、最後の力を振り絞って岸に近づいてきました。

約6時間の泳ぎの後でも、その規律正しい姿勢が美しく、私たちの心を打ちました。

そして、いよいよ学生たちが水中から姿を現しました。一人もへたりこむことなく、凛とした態度で立っていました。

その時、私の視線は初めて息子と交わりました。事前に応援に行くことを伝えていたものの、入水前には息子はこちらを見つける余裕がありませんでした。真っ黒に日焼けした息子の顔が、わずかに微笑んでいました。

泳ぎ切った誇りと、まだ訓練が続いている緊張感が混ざるその表情は、本当に素晴らしいものでした。この瞬間を私たちに届けてくれた防衛大学校に、心から感謝申し上げます。

最後の力を振り絞り海岸へ

（神奈川県自衛隊家族会　防衛大地区会　斎藤　允）

四国中央（愛媛県）
空自西部航空音楽隊コンサート
会場は約1000人の聴衆で満席

厳正な受付・案内の実施

愛媛県自衛隊家族会四国中央市地区会（石村拓朗会長）は8月6日、四国中央市しこちゅ～ホールにおいて、航空自衛隊西部航空音楽隊コンサートを四国中央市発足20周年プレイベントとして共催しました。

コロナ禍の影響により令和2年の陸上自衛隊音楽隊コンサートが中止されて以降、久々の自衛隊音楽隊によるコンサートであり、酷暑にもかかわらず市内各中学吹奏楽部員、高校吹奏楽部員など多数の市民が来場し、会場は約1000人の聴衆で満席となりました。

本公演は四国中央市、しこちゅ～ホール、四国中央市自衛隊家族会の共催で、自衛隊愛媛地方協力本部の協力を得て開催されたものです。自衛隊家族会の会員は新型コロナウイルス感染症予防に努めつつ受付・案内などを実施しました。

一般参加者は、持ち物検査での水筒やペットボトルの中身の安全確認の厳正さに驚きつつも、受付および案内などを実施した自衛隊家族会員へコンサート開催のお礼の言葉などが寄せられました。

公演後は学生など一般市民と自衛隊音楽隊員との交流があり、自衛隊活動への理解深化に大きな成果をあげました。

自衛隊家族会は自衛隊と一般市民をつなぐ架け橋とし、各種活動ができるように会員一同、気持を新たにしました。

無事コンサートを終えて

（愛媛県自衛隊家族会　四国中央市地区会　高橋　幸治）